

株式会社 NEXERA

代表取締役社長 飛田 恭兵

Marketing Town

マーケティングタウン

疑似経験で「学習」と「実践」の隔たりを埋める

社名：株式会社 NEXERA

所在地：〒550-0002

大阪市西区江戸堀1丁目19-23 NAGASAKIビル206

設立：2018年10月25日

代表者：代表取締役社長 飛田 恭兵

URL：<https://marketingtown.jp/>

事業内容：研修事業

ボードゲーム受託開発事業

事業内容

経営視点を体感的に学べる学習用次世代ボードゲーム『Marketing Town（マーケティングタウン）』を開発し、それを活用した企業研修での活用を進めている。

「Marketing Town」はカードで作られた仮想の街で、各プレイヤーは経営者として「市場調査」「出店」「仕入」「販売」「広告」「資金調達」から意思決定を行い、最終的にどれだけ利益を残せるのか、というボードゲームになっている。このボードゲームは、マーケティングにおける4Pと3Cのフレームワークを基に作られており、ボードゲームのプレイを通して個人の経営に対する視座を高め、俯瞰してビジネスを捉える能力を養うことを目的としている。

企業研修としては、「マーケティング特化パッケージ」「財務特化パッケージ」「経営戦略特化パッケージ」という3のパッケージプラン、および企業の状況に合わせた研修内容にカスタマイズするプランで展開している。



起業ストーリー

起業を考えた時期、きっかけ

父親、祖父ともに個人事業を営んでおり、幼いころから「大人になると自分で商売をしなければいけない」という認識が強く、「生涯会社員である」というイメージは小さかった。その後、商業高校で簿記やプログラミングを学び、大学では経営学を学ぶが、まだまだ自分で商売ができる能力はないと考え、新卒で経営コンサルティング会社へ就職。

就職活動の際には、自身に足りない知識や、必要な経験を逆算し、業種業界関係なく活用できる財務に強いコンサルティング会社を選択した。

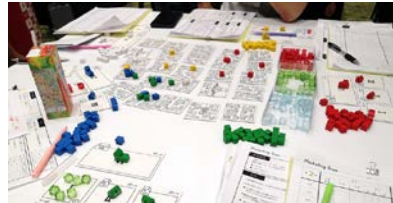
その後、コンサルティング会社での経験をもとに、クラウドファンディングのプラットフォームを手掛ける事業で独立、同事業では目標を達成できなかったものの、ボードゲームクリエイターで共同創業者の山本氏との出会いをきっかけに「Marketing Town」を開発、研修事業として展開するに至っている。

事業分野の選択理由

ボードゲームである「Marketing Town」を事業としたのは、大学1年生時の講義で「マネ

ジメントゲーム（MG）」を体験して衝撃を受け、ソフトバンク孫社長が自社の経営幹部に勤める「MG100 期プレイせよ」を実践、のめり込んだ経験と、ボードゲームで起業したいという山本氏との出会いによるものである。

MGはリソースマネジメントや財務を中心に学習するが、「Marketing Town」では「売るまでのプロセス」を学習できるようになっている。物が売れない現代に合わせ、「商品の売れる仕組み作り（マーケティング）」を体感できるようになっている。



事業の最終目標

『体験による学びの場を作る』ことが当面の目標である。

座学では平均学習定着率が低く、実践までの間に大きな隔りがある。しかし、ボードゲーム型学習による疑似経験では、座学と実践の間を埋めることができる。マーケティングは本でも学べるが、実践するまでには距離があるため、この「Marketing Town」を、多くの人にプレイしてもらい、令和を代表するビジネスボードゲームにしたいと考えている。

起業家コミュニティとの関わり

起業家コミュニティへの参加状況

起業家コミュニティには参加していない。ただ、完全に独力で起業に至ったのではなく、自らがスタートアップカフェ大阪の経営・起業支援を行ったり（山本氏との出会いもここだった）、「Marketing Town」開発段階において数多くの関係先に意見を求めたり、周囲の協力は数多く得ていた。

事業計画については、スタート時に事業が軌道に乗るまでのアクションプランを詳細に作成しており、自らが設定したマイルストーンを着実に進めている。

2019年12月時点では、この計画を先取りする形で進捗しており、同社WEBサイトからは、50件/月以上の具体的な営業に繋がる問い合わせがあるなど、今後において更なる拡大を期待できる状況である。

起業環境の整備に向けて

支援機関に期待すること

関西は、ベンチャー企業の数も多く、支援施策も充実しているが、起業支援が「スタートアップ」「スモールビジネス」等どこに向けての支援かわかりづらいところがあり、切り分けて見せることによって使いやすいものになると考える。また、各エリア毎に支援機関があるため「京都の人が大阪で支援を受ける」等のエリアを超えた活用が少なく、相互の支援機関の連携や越境したコミュニケーションの活発化に期待している。

学生、若者に期待すること

何か挑戦したいことや、実現したいことが見つければ、まずは行動してみる事が重要。ただ、行動と言っても、無闇矢鱈に行動するのではなく、目標達成のために、何が足りていて、何が足りていないかを認識し、足りていない部分について、どのように埋めていくのかをしっかり考え、実行する。それは、自分一人で考える必要はなく、使える支援機関、支援施策もたくさんあるため、それらを活用しながら、取り組むことが実現への近道だと思います。

